

『保育を学ぶシリーズ②保育内容総論』

[ワークシート]理解度テスト

以下の理解度テスト1～10の文章を読み、このテキストの論旨や内容に適するものに○、そうでないものに×を（ ）の中につけなさい。

理解度テスト1（第1章 保育と保育内容（生活と遊びの関係））

- 1) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている「領域」は、学校教育における「教科」と同様に、幼児期の終わりまでに到達しなければならない目標である。（ ）
- 2) 「保育内容」とは、幼稚園や保育所、こども園において子どもの全人格的な発達のために配列された多様な経験や内容のことである。（ ）
- 3) 「保育内容」の監督庁は、幼稚園も保育所もこども園もすべて文部科学省である。（ ）
- 4) 遊びは子どもにとって大事なものである。したがって、教育的観点から、遊びはあくまで、保育者主導で進めなければいけない。（ ）
- 5) 子どもの発達は年齢によって決まっているので、子ども同士に差があってはいけない。（ ）
- 6) 子どもを理解するために、子どもの外見적인行動だけではなく、「内面」を理解することも必要である。（ ）

理解度テスト2（第2章 乳幼児の発達と保育内容）

- 1) 乳幼児期は、言葉や文字を使えるようになった後も、直接操作することによって知識を広げていく時期である。（ ）
- 2) 女性の就労人口の増加と保育者や同年齢の子どもたちと一緒に日中を過ごす3歳未満児の増加との間には関連性がない。（ ）
- 3) 保育の内容は、園長や施設長が自分の理想や地域の実情だけで決めてよいものである。（ ）
- 4) 教育課程、保育計画の定期的な自己評価には、保護者や園関係者など外部の評価には耳を傾ける必要はない。（ ）
- 5) 週案、日案ともに、刻々と変化する子どもの姿と、それに対する保育者の読みとりや意図が計画に反映されていなければならない。（ ）

理解度テスト3（第3章 乳幼児の保育内容の実際）

- 1) 0歳児の発達の特徴として、個人差はあまり見られないので、全員同じ対応の仕方でもよい。()
- 2) 20歳児クラスでの午睡の開始や長さは子どもの月齢やその日の子どもの体調によって異なる。()
- 3) 1歳児になると、子どもは信頼関係を確立した大人に見守られ、安定した環境の中で意欲的に行動できるようになる。()
- 4) 2歳児では、簡単な衣服の着脱や食事、排泄の後始末などの身の周りのことが自分でできるようになる。()

理解度テスト4（第4章 3歳児以降の保育内容）

- 1) 3歳児の「生活」における保育のポイントは「食事」「排泄」「睡眠」「知着脱衣」「清潔」「挨拶」などの基本的な生活習慣を身につけることである。()
- 2) 5歳児では、文字や数字に興味をもち、思考力も高まってくる。()
- 3) 異年齢児保育では、年齢を超えて共にいきる楽しさを味わっていけるようにすることが必要である。()

理解度テスト5（第5章 保育内容と保育形態）

- 1) 設定保育とは、保育者が保育のねらいなどに基づいて保育内容を決定しておき、保育者がその活動を、同一の時間内に、同一の方法で、子ども達に対して一斉に行う保育形態のことである。()
- 2) 子どもの集団形成の在り方から保育形態を捉えていくためには、現象的な遊びや姿から判断することである。()
- 3) クラス編成の在り方によって、子どもの生活や活動の在り方も影響されるが、保育形態とは関連しない。()
- 4) 多文化共生保育では、多様な文化的・民族的な背景をもつ子どもが同じ集団の中で生活し、活動することになる。()

理解度テスト6（第6章 保育内容の歴史の変遷）

- 1) 明治5年の「学制」の公布によって、幼児教育機関として「幼稚小学」が開設された。（ ）
- 2) 我が国における保育所の始まりは、新潟市に開設した「新潟静修学校」である。（ ）
- 3) 幼稚園教育要領は、昭和31年に初めて刊行された。（ ）
- 4) 昭和22年に正式に「保育所保育指針」が策定され、6領域が示された。（ ）

理解度テスト7（第7章 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こどもとの違い）

- 1) 幼稚園教育要領は歴史的に10年ごとに改訂されてきた。（ ）
- 2) 幼稚園教育要領の「領域」は幼児の発達の側面からまとめられたものである。（ ）
- 3) 保育所保育指針は、2008年の改訂において、「通知」から「告知」になった。（ ）
- 4) 2018年の改訂の特徴の一つとして、施設ごとの共通の目標として、「10の姿」があげられる。（ ）

理解度テスト8（第8章 乳幼児の環境と保育教材について）

- 1) 室内で紙芝居や絵本等を実践するとき、保育者は乳幼児と応答的対応をしながらするとよい。（ ）
- 2) 乳幼児の教材の選択については、年間計画との関連を考える必要はない。（ ）
- 3) 興味性・ドキドキ感やわくわく感をもって子どもが遊びから学ぶ保育教材・文化教材 を活用することが重要である。（ ）
- 4) 保育者は毎年、その時期に決まった教材を環境として準備するのが望ましい。（ ）

理解度テスト9（第9章 学校教育の基礎とする幼児教育理）

- 1) 幼児が通園する施設として、幼稚園、保育所、こども園があるが、それぞれの保育の目的は同じである。（ ）
- 2) 4歳後半ころから6歳にかけて、自ら遊びをみつけ、活動も活発になり、複数人で行う共同体としての遊びを求める子どもが増加する。（ ）
- 3) 幼児期は遊びによって得られる直接的な体験からの学びを重視する。小学校では、全員に共通の学

習課題があり、学習のための活動が明確にある。()

理解度テスト 10 (第 10 章 保育者の専門性)

- 1) 保育者は、長期的な訓練を受け、高度な知識や技術を身につけるだけでよい。()
- 2) 大学で学ぶ専門的知識は現場で役にたつことはないので、保育者として現場で学んだ ことだけを大事にする必要がある。()
- 3) 園が求める保育者は、保育者自身が心も体も健康であること、他の保育者と一緒に協力していくことが出来ることも重要な要素である。()
- 4) 保育者に求められる専門技能としては、コミュニケーション能力があげられる。()